

## シラバス情報

授業方法	講義・実験・実習
系列	自動車工学
科目名	シャシ構造
必修・選択	必修科目・選択科目
対象学科	一級自動車整備科・二級自動車整備科
年次学期・曜日・時限	1年後期・水曜日・3・4時限あるいは5・6時限
時限数	24時限(中間及び期末試験を除く)
担当教員名	廣石 泰大
実務経験	有・無 国土交通省に認証された事業場における保守・点検・分解・組立など自動車整備士としての経験を活かし、整備を行う上で必要となるシャシを構成する各装置についての講義を実施する。
授業の目的	ホイール・アライメント及びブレーキ装置を構成する各装置・部品の構造・機能、及びそれらの装置の役割や作動について講義する。
テキスト	①三級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会 発行)

### 授業計画

授業回数	テーマ	内容・方法等	使用テキスト範囲
第1回	ホイール・アライメント1	ホイール・アライメントの概要	①P254~255
第2回	ホイール・アライメント2	キャンバ、キャスター、キングピン傾角 其々の効果や役割について解説	①P256~257
第3回	ホイール・アライメント3	トー、ターニングラジアス 其々の効果や役割について解説	①P257~258
第4回	ブレーキ装置1	ブレーキ装置の概要、マスタ・シリンダの構造、作動について解説	①P264~267
第5回	ブレーキ装置2	ブレーキ・パイプ及びブレーキ・ホース、ドラム・ブレーキの構造、作動について解説	①P267~270
第6回	ブレーキ装置3	ドラム・ブレーキの構造、作動及び特徴について解説	①P270~273
	中間試験	第6回までの授業内容に関する筆記試験	
第7回	ブレーキ装置4	ディスク・ブレーキの構造、作動及び特徴について解説	①P273~275
第8回	ブレーキ装置5	ディスク・ブレーキの構造、作動及び特徴について解説	①P276~277
第9回	ブレーキ装置6	制動倍力装置の構造、作動及び特徴について解説	①P278~280

第 10 回	ブレーキ装置 7	パーキング・ブレーキの構造、作動及び特徴について解説	①P280~283						
第 11 回	ブレーキ装置 8	電動式パーキング・ブレーキの構造、作動及び特徴について解説	①P 283						
第 12 回	まとめ	期末試験へ向けた練習問題及び全講義の復習							
	期末試験	第1回～第12回までの授業内容に関する筆記試験							
到達目標	ホイール・アライメント及びブレーキ装置を構成する各装置・部品の特徴を捉えて、名称・構造・機能・作動の理解をし、各装置の制御について理解をする。								
成績評価方法	平常点（小テスト、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度）、中間試験並びに期末試験を合算して行う。								
定期試験受験資格	開講された全时限に出席し、レポート・ノートの提出が完了している者。欠席した时限がある場合は、補講も完了している者。								
成績評価基準	<p>成績評価は、期末試験の点数が40点以上を満足した上で、100点を満点とする整数について、次の割合で行う。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>中間試験の点数</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>期末試験の点数</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>平常点</td> <td>30%</td> </tr> </table> <p>上記の割合によって学期末の評点が60点以上である場合、以下によって評価する。</p> <p style="text-align: center;">60～69点 = 可、70～79点 = 良、80～89点 = 優、90点以上 = 秀</p> <p>60点未満の場合、再試験を行い、試験点のみで60点以上のとき履修を認定し、成績は60点 = 可とする。</p>			中間試験の点数	30%	期末試験の点数	40%	平常点	30%
中間試験の点数	30%								
期末試験の点数	40%								
平常点	30%								
成績評価できない場合の基準	全講義を終了時点の出席率が50%を満たしていない場合、又は、成績評価が60点未満の場合。								